

## ◆講習会等

### メカジキのたて縄漁業に関する講習会

(伊平屋村漁協)

水産海洋技術センター本部駐在 上原匡人

#### 1. 目的および背景

メカジキは、メカジキ科メカジキ属に属する魚類であり、インド・太平洋、大西洋および地中海など熱帯域から温帯域において広く生息している。水産総合研究センターによる中西部北太平洋におけるメカジキ資源の評価は、健全（高位・安定）とされていることから、近年、沖合漁業の対象種として再注目されている。沖縄県でも、以前より漁業者間の交流のあった小笠原からメカジキのたて縄漁法の情報提供があり、新垣哲司指導漁業士らを中心に漁具の改良や漁場の探索等が進んでいる。このような状況の中、伊平屋村漁協では、近年、曳縄、一本釣り、たて縄など沖合漁業に興味・関心をもつ若い漁業者が増えており、沖合漁業に関する学習や交流の機会が求められている。そこで、伊平屋村漁協の漁業者を対象としたメカジキのたて縄漁業に関する講習会を実施し、漁業者の知識や技能の向上を図ることを目的とした。

#### 2. 講習日程

本講習会は、下記の日時と場所において開催され、海人6名、漁協職員2名の計8名が参加した。

日時：平成28年2月19日

場所：伊平屋村漁協会議室

なお、当初は、名護漁協の岸本幸二青年漁業士を招聘して技術交流を兼ねた講習会を計画していたが、台風（平成27年9月28日）と冬季風浪（平成28年1月25日）による定期船の欠航で2回の延期を余儀なくされており、計画を一部変更して講義スタイルの講習会と

なった。

#### 3. 講習内容

##### (1) メカジキの資源生態

はじめに、カジキ類の種類やメカジキの成長、寿命、産卵期など生物特性について概説した。次に、バショウカジキやクロカジキで報告されている吻を利用した採餌行動とメカジキの胃内容物組成の季節変化について紹介し、日周鉛直運動や水平移動についても言及した。これらの内容は、漁具の仕立てや操業に関わる内容であったことから、参加した海人は興味深く聴講していた。

##### (2) メカジキのたて縄漁業

前述の生物特性や行動生態を踏まえて、下記の項目について概説した。

①メカジキのたて縄漁業の導入経緯

②沖縄型のメカジキのたて縄漁具の仕立て

③小笠原海域および沖縄海域での試験操業の結果

④漁獲量および単価の推移

⑤メカジキの重量別および季節的な脂質の変化

⑥県内および県外流通の現状と課題

なお、沖縄海域での試験操業のデータは、海洋資源・養殖班の平手康市班長より提供して頂いた。この場を借りてお礼申し上げる。

#### 4. 参考文献

Lee (2015) メカジキはなぜ漁師を刺し殺したのか. National Geographic 日本版ホームページ

( <http://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/15/060400132/>)

Domenici P, Wilson ADM, Kurvers RHJM, Marras S, Herbert-Read JE, Steffensen JF, Krause S, Viblanc PE, Couillaud P, Krause J (2014) How sailfish use their bills to capture schooling prey. *Proc. R. Soc. B*, 281: <http://dx.doi.org/10.1098/rspb.2014.0444>

平手康市・加藤美奈子 (2014) 沖縄県におけ

る新たな漁業「メカジキたて縄漁業」。沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル研究会ニュースレター, 14: 2-3.

山口邦久 (2011) 小笠原諸島海域におけるメカジキの生態と漁業. 東京都水産海洋研究報告, 4: 1-28.

Shimose T, Yokawa K, Saito H, Tahichara K (2007) Evidence for use of the bill by blue marlin, *Makaira nigricans*, during feeding. *Ichthol. Res.*, 54: 420-422.



メカジキのたて縄漁業の講習会の様子